

元年度決算を
認定

3日間にわたり
延べ191件の質疑
4日目に議員間討議



決算特別委員会での審査の様子

今回の議会には、令和元年度一般会計・各特別会計の決算認定議案が上程されました。決算特別委員会での審査後、本会議において、一般会計・各特別会計ともに全会一致で認定しました。

決算特別委員会で審査

町側から議案の提出を受けた議会では、直ちに決算特別委員会を設置し、委員長に村山正利議員、副委員長に下澤章夫議員を選出。議長、議会選出監査委員を除く14名により、3日間にわたって審査を行い、4日目に議員間討議を行いました。

一般会計では、前年度と比較して歳入では16億6962万1706円（11.27%）の増、歳出では15億8933万6074円（10.92%）の増となっています。

会計名	歳入	歳出
一般会計	164億9043万2591円	161億4261万5614円
国民健康保険	37億4726万806円	37億522万976円
駅西土地区画整理事業	15億4276万4045円	14億8040万2817円
下水道事業	10億9911万697円	9億7260万1419円
介護保険	22億9603万2407円	22億9141万1928円
後期高齢者医療	7億3576万7761円	7億2797万4127円
殿ヶ谷財産区	494万4626円	411万2865円
石畑財産区	1947万5806円	1707万6080円
箱根ヶ崎財産区	1019万799円	889万9055円
長岡財産区	92万4438円	64万2997円



完成した新庁舎

令和元年度も財政の健全化判断比率は四項目とも素晴らしい数値で黒字決算であった。遠隔地等居住実態調査、コンビニエンスストアでの収納など税徴収の効果を上げ、また、国・都からの補助金の獲得に努力をし、財源確保に努めた。新庁舎建設、「権利擁護センターみずほ」設置、特色のある公園整備、感震ブレイカー給付など、主要施策に掲げた事業のほとんどを着実に実行した。健全な行財政運営ということにおいて、令和元年度決算は評価に値する。

討論(要旨)
賛成

下澤 章夫 議員

pick up 2 新型コロナウイルス感染症対策
都から町に約9500万円

議案第63号 瑞穂町新型コロナウイルス感染症緊急対策特別交付金基金
条例を可決

新型コロナウイルス感染症対策として、都が都内市町村に対して100億円を用意したもので、町には9581万8000円が配分されました。町はそれを基金として積み立てます。

- Q 基金の活用可能な項目は。 レワーク導入経費、窓口業務の機械化に伴う
A オンライン授業システムの構築経費、テ 対応経費など、幅広く活用できる。

pick up 3 経済対策、感染症対策、教育環境保持など
総額約5億6000万円を補正

議案第68号 令和2年度瑞穂町一般会計補正予算(第6号)を可決

歳入歳出予算の総額にそれぞれ5億6001万5000円を追加します。主な内容は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に関連したもので、感染防止に向けての対策経費と経済対策としてのプレミアム付商品券事業などです。

- Q プレミアム付商品券事業約9100万円の内容は。
A 1万3000円分の商品券を1万円で販売するもので、発行冊数は2万4000冊である。また、全世帯が購入可能なように、今回は応募はがきを予定している。なお、これにより3億1200万円が町内で循環することになる。
- Q 小・中学校の新型コロナウイルス感染症対策に係る備品購入費で総額約960万円の予算を計上しているが主なものは。
A 全児童・生徒の机に飛沫防止のパーテーションを設置する。また、壁掛け用の扇風機や簡易ベッドのほか、各学校の校長先生の要望を受けたものを予算計上した。

pick up 4 1歳から5歳までのお子さんへの
インフルエンザ任意予防接種費用を全額助成

議案第88号 令和2年度瑞穂町一般会計補正予算(第7号)を可決

定例会の最終日に新たに提案されました。歳入歳出予算の総額にそれぞれ400万円を追加します。内容は、1歳から5歳までのお子さんに対してのインフルエンザ任意予防接種の費用を全額助成するものです。

- Q 助成内容と対象者は。
A 助成額は接種費用の全額とする。対象は接種日現在で1歳から5歳までのお子さんで、950人分を見込んだ。
- Q 補助の目的は。
A 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの症状が、発熱など類似性があるため、インフルエンザの予防接種を行うことにより、発熱患者を減少させ、感染症の拡大防止と医療体制の維持に貢献するものとする。なお、この補助は、現時点では今回限りと考えている。